フレッシュ藤岡

「藤岡民報」中沢秀平活動報告版
第2号（2016年1月）

連絡先:松本潔 藤岡市中大塚401－12
☎0274－22－4242

議会報告1

中沢議員、市民の声を議会にと奮闘

市は不十分な答弁に終始

中沢議員は昨年四月の初当選以来、三度の議会を経験しました。六、九、十二月です。その三度とも、当然の権利として質問を行いました。

最初の六月議会では、さすがに緊張したのか、持ち時間の一時間を大分余してしまいましたが、十二月議会では持ち時間をほぼ使い切り、対応力の早さを示しました。生来の落ち着いたよく通る声、そして柔らかな言い回しでの説得力ある質問は好印象を与えてくれます。

それでは直近の十二月議会の様子を若干お知らせします。

中沢議員は四点に渡って質問しました。①高齢者の交通手段、②マイナンバー制度、③介護保険制度、④住宅リフォーム助成制度と、いずれも市民にとって身近で切実な問題です。

①については現状、高齢者への路線バスの割引制度があるが、市の周知方法が弱く利用者が大変少ない。交通権は憲法に保障されている。路線バスの無い地域でも利用できるタクシー券の補助制度を創設すべきだ、伊勢崎や安中では実施していると質しました。市の答弁は、「現在予定はない、今後検討していきたい」でした。

②ではこの制度は市の財政負担が大きく、この問題点が噴出していると質したのに対して、市は国が行うことなので「シュクシュク」とすすめると答えて議場の失笑を買いました。

③の介護の新総合制度は介護つぶしの大変な制度です。市は「サービスは維持したままで新制度に移行していく」と答えましたが、今後しっかりと監視していく必要があります。

④は今や未実施の市は藤岡とみどりのみです。市は依然として「検討する」と答えるのみです。

市の答弁から見えてくるのは、地方自治をあずかる立場としての主体性が弱いということです。党と市民の連携をさらに強めて、中沢議員を先頭に市の姿勢を転換させていくことが重要です。

戦争法の廃止に向けて

県でも地域でも行動

中沢議員は、昨年九月に高崎駅西口で、二百人が結集しての大宣伝行動で、力強く訴えました。

また若者中心の市民運動のPAGのメンバーとして、宣伝、集会、デモとフル回転しています。

地元では藤岡九条の会の一員として、戦争法案の国会提出後、二十回連続で宣伝行動に参加しています。

議会報告2

戦争法は国のこと　地方は…

中沢議員、請願の紹介議員に

昨年の市議会において、新婦人藤岡支部と藤岡九条の会から、「戦争法（安保法）」の廃案、更には廃止の請願が出されました。いずれにも二十人の議員の中で中沢議員のみが紹介議員になってくれました。

委員会や本会議での審議では、この法律の本質である「戦争する国づくり」という観点での意見は皆無でした。いわく中国の脅威にどうする、選挙で多数の信任を得た政党がすることだ、集団的自衛権といっても限定的だ、憲法学者が反対といっても三権には属していない等々、見識を疑われるものばかりでした。

結局、委員会では賛成0、本会議では賛成2で否決という残念な結果でした。

※昨年十一月、市議会の全議員二十人に「戦争法」についてアンケートを行いました。**回答**は中沢議員を含め三名。議員というのは極めて公的な立場のはずですが、市民の真摯な問い合わせにこの対応とは…。

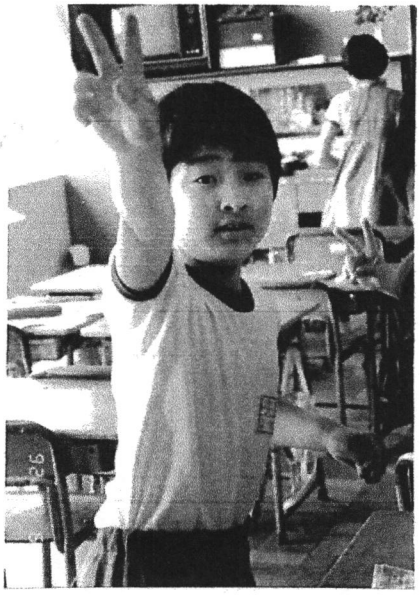
戦争法廃止！

スタンディングで街頭で先頭に…

藤岡九条の会は昨年十一月より、毎月9の日に**森の**交差点にて、早朝、スタンディングを始めました。また、第一、第三水曜日の街宣は通算四十回と継続しています。

中沢ワールド

小野小で過ごした少年時代　中沢秀平

私が藤岡市に住み始めたのは25年ほど前です。小平市（東京）から立石神社近くへと引っ越してきたのが2年生の終わりで、小野小へ転校しました。4年の初めには新町第一小へと再び転校しましたが、この小野小での一年間は今でも思い出深いものとなっています。

私は小中高校通してほとんど習い事をしたことがありませんでした。なので放課後は友人と過ごすことが多く、特に仲の良い二人とはいつも一緒でした。小野小で過ごした一年間、ほとんどはそんな友人との思い出です。中でも特に印象的なのは烏川の河原に秘密基地を作って遊んだことです。関越自動車道の通る橋の東側、葦が茂る場所を切り開いて小さなスペースを造りました。遊んでいるうちに自転車の鍵をなくして家まで自転車を押して帰ったり、子どもたちだけで一泊する計画を立てたりしたことが思い起こされます。いまではその場所は何でもなくなっていますが、たまに見に行くと懐かしい気持ちになります。